

自分で考え・選び・進めたら…ふり返る！ 気付く！ 活かす！

学校教育目標を「自分で考えよう 自分で選ぼう 仲間と進めよう」と示した2年間。始業式や終業式で、学校の目標について話すたびに児童から先に口をついて出てくるようになりました。自由進度学習や学校行事のふり返りに、「自分たちで選んでやるのが楽しい」「次は先生チェックに挑戦して合格する！」「最高学年として自分たちで考え、選んでやるべきことがわかった」というような記述をたくさん見かけます。この2年間、全学年で自由進度学習を実践しましたし、2教科同時並行であっても、児童は自分で考え、選び、仲間とともにぐんぐん進めていけるようになっていきます。昨年度3学期の修了式で、「**自分で考え、選び、進められるなら、次は ふり返る・気付く・活かすことを目標にしよう**」と話しましたが、今年度の始業式に覚えている児童もあり、さすが地小っ子だと感心します。

本校で進める研究は「主体的に学び続ける児童の育成～自由進度学習の取組を中心として～」であり、各学年で教材研究・教材開発をして、具体的な実践を積み重ねてきました。



初めて体験していた頃は、児童の戸惑いも大きかったですが、今では「次の自由進度学習はいつですか？」と催促するくらいになりました。自由進度学習を中心に**自己選択・自己決定・自己調整**の場を増やしていくことで、他の授業や学校行事、学級活動でも「自分で考え、自分で選び、仲間と進める姿」が増えてきました。だからこそ、その先を見据え、今年度は「**自分で考え、選び、進めたら…ふり返る・気付く・活かす**」に挑戦させます。挑戦させるというよりは、もう既に児童自らが始めています。学習のふり返り表には、今日の学習で何がよかったか、どこが課題か、次に進めるべきことは何か、どんな学びが自分に合っているのか、様々なことに気付いて書き留められています。それを頼りに、次の時間の学習が始まります。優れた学習環境を準備すれば、児童は自ら学ぶ存在なのだと改めて気付かされます。だとすれば、私たちがやることは、児童が主体的に学ぶための環境をひたすら追求し、試行し、それらをふり返っては協議し、気付く、改善し、次に活かしながらよりよい学びの場を見つけ出していくことです。児童に求める「ふり返る・気付く・活かす」は私たち教職員がなすべきことでもあります。

自由進度学習を中心に据えながらも、様々な教育活動で児童が成長する場を計画・準備して行動させていきます。そして、**自分で見通しをもち、チャレンジしてはふり返り、そこから新たに気付く、自己調整しながら次の課題に活かしてまた挑んでいく。その繰り返して、困難を乗り越えたり、大きなことをやり遂げたりしつつ、人は成長していくことを**



全ての教育活動を通じて、
全児童に伝え続けます。

令和7年4月

校長 戸崎志乃婦